



研究者名※	堀内 ふみ野 HORIUCHI Fumino	学位※	博士(文学)
所属※	文学部 英文学科	職名※	准教授
連絡先	horiuchif@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	<a href="https://researchmap.jp/fhoriuchi">https://researchmap.jp/fhoriuchi</a>		
研究分野※	言語学		
研究キーワード※	認知言語学、用法基盤言語学、語用論		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・打ち言葉に特有の構文形成のメカニズム:非標準的な句読法に着目して(科学研究費若手研究・研究代表者、2023~2025年度)</li> <li>・English Prepositions in Usage Contexts: A Proposal for a Construction-Based Semantics(科学研究費研究成果公開促進費(学術図書)、2021年度)</li> <li>・前置詞の習得における対話的相互行為の役割(科学研究費若手研究・研究代表者、2019~2021年度)他</li> </ul>		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人 文京アカデミー 文京アカデミア講座「言語学から見る英語・日本語—身近なことばの不思議を探る—」講師(2023年2月~3月)</li> <li>・公益財団法人 文京アカデミー 文京アカデミア講座「言語学から見る英語・日本語—「なぜそう訳すのか」考えよう—」講師(2022年1月~2月)</li> <li>・社会言語科学会事業委員会 2020年度オンライン講習会「社会言語科学の研究の始め方」講師(2021年3月)</li> <li>・公益財団法人 文京アカデミー 文京アカデミア講座「言語学から見る英語・日本語—「なぜそう言うのか」を考えよう—」講師(2020年9月~11月)</li> <li>・社会言語科学会事業委員会 2019年度第1回講習会「社会言語科学の射程」講師(2019年10月)</li> </ul>		
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会言語科学会第39回研究大会発表賞(2017年)</li> <li>・日本認知言語学会奨励賞(2016年)</li> </ul>		

研究領域	認知言語学、用法基盤言語学、語用論	(SDGs)
研究テーマ※	言語使用から形成されていく文法パターンの研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p><b>【研究の背景・目的・内容】</b>          私たちは一定の文法的なパターンに従って言語を使っているが、文法に関する知識を子供はどのように習得するのだろうか。また、言語は時代に応じて変化するとされるが、新たな文法パターンはどのように許容され、定着していくのだろうか。私は、実際の言語使用の様子を記録した多様なデータ(例:家庭内での親子の会話を複数年に渡って記録したデータ、大人同士の会話データ、近年のSNS等におけるオンライン・コミュニケーションのデータ)の分析を通して、子供の構文習得に関わる要因や、書き言葉の規範に合わない「逸脱的」な構文がSNS上で発達し定着する動機付けを探ることで、これらの問いの解明に取り組んでいる。</p> <p><b>【応用例、研究の展望】</b>          子供の言語習得に関する研究知見は、言語教育や第二言語習得の分野の研究に応用できる。また、会話やSNSに見られる「逸脱的」構文の使用や文法変化に関する研究知見は、コミュニケーションの性質やメディアの性質が言語の使い方や言語変化に与える影響を明らかにすることに貢献しうる。</p> <p><b>【研究方法の特色】</b>          伝統的な文法研究では、書き言葉に基づく規範的な文法構造の分析が主流であった。それに対し、本研究では、会話やSNSといった多様なデータから言語使用の実態を記述・分析している。これによって、ジャンルやメディアの違いに応じた文法の多様性を明らかにすること、「逸脱的」な構文の分析をもとに文法変化の動機付けを考察することが可能になっている。</p>	

<p>本研究関連 特許・論文等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Horiuchi, F. &amp; T. Nakayama. 2023. Commas as a constructional resource: The use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts, <i>Journal of Japanese Linguistics</i> vol. 39(1), 145–163.</li> <li>・Horiuchi, F. 2022. <i>English Prepositions in Usage Contexts: A Proposal for a Construction-Based Semantics</i>, Hituzi Syobo.</li> <li>・Nakayama, T. &amp; F. Horiuchi. 2021. Demystifying the development of a structurally marginal pattern : A case study of the <i>wa</i>-initiated responsive construction in Japanese conversation, <i>Journal of Pragmatics</i> 172, 215–224.</li> <li>・堀内心み野. 2021.「親子会話で・生起する前置詞句単独発話」『語用論研究』22, 74–93.</li> <li>・堀内心み野. 2018.「親子のやりとりにおける前置詞の使用—対話統語論のアプローチ—」山梨正明(編)『認知言語学論考 No. 14』, 291–327, ひつじ書房.</li> <li>・Otani, N. &amp; F. Horiuchi. 2013. The grammatical function of <i>under</i> as a head of protasis: From spatial senses to grammatical functions, <i>English Linguistics</i> 30(1), 169–190. 他</li> </ul>
<p>共同研究・外部機関 との連携への期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> </ul>